

# 産業衛生技術フォーラム・温熱環境研究会シンポジウム

## 気候変動とこれから求められる熱中症対策

5月25日(土) 14:20~16:30  
第8会場(2号館3階 会議室234)

座長: 齊藤 宏之(独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所)  
井奈波良一(岐阜大学大学院医学系研究科 産業衛生学分野)

1. 我が国における熱中症の現状と将来予測  
小野 雅司(国立環境研究所)
2. 発汗サーマルマネキンを用いた、日本産業衛生学会の勧告する高温の許容基準の検討  
森實 修平(産業医科大学産業生態科学研究所 産業保健管理学教室)
3. 新しいクーリングおよびセンシング技術による熱中症対策  
時澤 健(労働安全衛生総合研究所)
4. 包括的な熱中症対策プログラムの導入  
中原 浩彦(JXTGエネルギー(株)環境安全部)

### 座長の言葉

職場環境における問題に関しては化学物質のみならず、温熱環境や音響、振動、電磁波といった物理環境についての適切な認識や対策も重要である。近年、熱中症の多発傾向が続いており、来年開催される東京オリンピック・パラリンピックにおいても熱中症が懸念されていることもあって、社会における熱中症への関心が高まっている。職場環境においても、熱中症は夏季労働環境における労働災害として重要であり、さらなる対策が求められている。

このことを受け、本セッションは産業衛生技術部会と温熱環境研究会の合同企画として「気候変動とこれから求められる熱中症対策」と題して実施することし、第1題では、国立環境研究所の小野雅司先生に「我が国における熱中症の現状と将来予測」について、第2題では、産業医科大学産業生態科学研究所の森實修平先生に「発汗サーマルマネキンを用いた、日本産業衛生学会の勧告する高温の許容基準の検討」について、第3題では、労働安全衛生総合研究所の時澤 健先生に「新しいクーリングおよびセンシング技術による熱中症対策」について、第4題では、JXTG エネルギー(株)の中原浩彦先生に「包括的な熱中症対策プログラムの導入」について、それぞれ解説していただくこととした。

今回の企画を通して、職域における熱中症対策についての理解が深まり、有効な熱中症対策が行われるとともに、産業衛生技術部会ならびに温熱環境研究会の双方の会員間での交流が促進され、双方の一層の発展に寄与すれば幸いである。